

TOEIC 演習 通信

発行：大城賢 (koshiro@edu.u-ryukyu.ac.jp) No. 3

TOEIC とはどんな試験か (3)

TOEIC の対策をさんざんやっているところで恐縮ですが、TOEIC に対する批判についても紹介したいと思います。これは「TOEIC 亡国論」(猪浦道夫, 集英社新書)からの抜粋です。会社員 F さんの感想です。

1. 急いで解かないと間に合わないので、本当に理解できているかわからない。
2. 選択問題中心なので、真の実力を測れているとは言い難い。
3. 仕事での実用性につながらない。実際、仕事で英語を使っていて、「あ、これ TOEIC に出た」と思ったことは一度もない。
4. 試験問題を持ち帰れない。スコアだけ出ても何を間違えたかわからない。したがって実力がわからないし、復習もできない。
5. いまだにかなりの企業がスコアを採用基準にしているが、やってみたい仕事でもスコアがないことで不採用の可能性があったりする。そのために TOEIC スコア獲得のためだけの学習を余儀なくされる。
6. 攻略本などがあり、本当に英語を理解したうえで獲得できているスコアかという保証がない。ある友人に聞くと、長文など全部読まずに解くテクニックがあるという。
7. 海外で通用しないので、海外で何かしたい人には無駄な努力になってしまう。

いかがでしょうか。TOEIC の勉強をしていて、みなさんの中にも 1~7 のことをなんとなく感じた人もいるかもしれません。一つの試験で全ての能力を測ることは逆に難しいのかもしれない。TOEIC の特徴は、前号でも書いたように、「即聴・即解」と言えるかもしれません。TOEIC テストにも弱点があることを十分に理解した上で、TOEIC のテストを考える必要があります。

私のお勧めは、「即聴・即解」を鍛えつつ、発信（話したり書いたり）することを考えて学習することです。聴いたことを発信するためには構文、語彙、文法の正確な知識が必要です。「これは使えるな」と思った表現はメモをして表現集を作るなりするとよいと思います。そして発信してみることです。発信することで知識は確実にになります。私たちに必要なのは高得点よりも実力です！